

1 能勢電鉄社有地における里山林活動

主体
能勢電鉄株式会社、川西里山クラブ、等

場所
兵庫県川西市黒川地域一体、能勢妙見山

背景

(株)能勢電鉄は、「地球環境の保全は人類共通のテーマであり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命である」との認識にたち、企業活動を実施している。具体的な環境保全の取組みとしては、里山の普及活動、エコ対策等である。里山に関しては、日本一の里山景観が当社社有地に近接しており、社有地を里山として開放し有効利用できる事。また、PR面では里山ハイキングの実施等、広く活動を行っている。



1. 能勢電鉄社有地における里山林整備について〔今後の計画対応〕
当社は、黒川地区で実測〔概算〕40haの土地を所有し、能勢妙見山への参拝者用のケーブル、リフト等の施設用地があるが、大半の土地は山林で放置されたままであり里山林として再生する。

今般、平成18年度は次のとおり計画。

- 1) 里山ふれあい森づくり(ミニ里山公園型)事業に賛同し取組む。
 - ・今後、川西市、兵庫県と事前協議を行い各種整備につとめる。平成18年度事業。
- 2) 里山ふれあい森づくり(住民参加型)事業を推進する。(予定)
 - ・川西里山クラブと里山林の再生に取組む。
 - ・現在、里山再生の場所、方法等について具体的に協議中。計画の策定後に活動を開始する。

2. その他、里山ハイキングなどの普及啓発活動

- 1) 普及啓発活動
 - ・鉄道線、15駅に里山関連のPR、案内ポスター等の掲出、及び駅にチラシ配布を実施。
 - ・ケーブルの旅客に対し乗務員が「日本一の里山」を車内放送で案内。黒川駅でも写真展示の案内。
 - ・「日本一の里山」探訪散策コース(服部先生監修)の案内チラシを妙見口駅、黒川駅等に配備。

2) ハイキング活動

- ・2006年9月18日(祝)、里山ハイキングの実施。(本来の里山景観が今なお残る)黒川コース。
- ・その他、沿線ハイキング道中で里山モザイク眺望、炭焼き跡、エドヒガン等の案内表示し里山景観をPRする。

2 里山林活用型原木しいたけ生産体制整備事業

主体

兵庫県（地域振興部宝塚農林振興事務所林業課）

事業場所

北摂地域

趣旨・目的

当管内には原木栽培のしいたけ生産者が多く、都市に近いので、地元スーパー、直売所等への直接販売を行っている。県内では原木は東北等他県から購入することが多いが、当管内では地域からの供給が主流である。原木を伐採して利用することは、昔のように里山を利用することになり、地域の森林整備に結びつく。

そこで、原木しいたけは自然食品であるだけでなく、これを消費することが森林整備につながり、いわば森林ボランティアへ参加したことを「原木しいたけを選ぶのは誰でもできる森林ボランティア活動」としてアピールし、森林の整備と特産林産物の生産振興を図る。

事業内容

生産者の組織化とPR活動

原木しいたけの生産者を組織化するとともに、販売者、森林所有者、森林ボランティア、教育関係者等も交えて、原木しいたけ振興のための検討とPR活動を行っていく

(1)メンバー

しいたけ生産者10名程度、パスカル三田、猪名川町道の駅、スーパーマーケット1~2社、消費者団体等

(2)スケジュール

18年4月~	協議会設立のための調整
18年6月~	検討会開催(2回)
18年9月	協議会設立
18年10月~	パンフレット、ポスター、シール等作成
18年10月~	イベント等でのキャンペーンを順次実施

事業実施期間 : 平成18年から平成19年度



原木しいたけを食べることは森林ボランティア活動です！

平成18年度の取り組み

検討会の開催
協議会設立
ポスター、シールの作成

平成19年度以降の取り組み

協議会開催
イベント等でのキャンペーン
生産技術等の研修会開催

事業実施上の課題等

生産者にとってのメリットも明確にしていく必要がある

3 川西市黒川地区の里山をテーマとした地域おこしの取り組み

主体

黒川まちづくり推進協議会、川西市、兵庫県

事業場所

川西市黒川地区（クヌギ林）

取り組みの意義

日本一とも言われる里山林があり、阪神北地域にとどまらず、県下のひいては全国の里山の象徴ともいえる地区である。この地域が注目されることで県民の里山保全への関心が高まるという、いわば里山保全の公告塔のような役割が期待できる。

このため、多くの人がこの地域を訪れ理解を深めてもらえるよう、集客と体験の仕組みを整備していく。

取り組みの基本的な考え方

周遊コースを設定し、見学や体験を通じて里山保全への理解が高まるよう計画する。さらに、地域に多くの人を訪れることが地元にも利益となり活性化につながるようにしていく。

今後の計画

- 1 黒川まちづくり協議会を中心に地元主導で検討していく
- 2 日本一の里山資源だけでなく、当地域は、周辺も併せて徒歩圏内にNPOによる6つの森林保全活動が行われているという「里山保全活動のメッカ」であることもPRしていく。

内容

1 見学コースの整備

日本一といわれるモザイク状の里山景観、台場クヌギ、炭窯、100年前の学校の校舎、森林ボランティアの活動地等をめぐるコースを整備するとともに、このコースに組み入れるのにふさわしい施設、産物の販売、食の提供、体験の場等を整備していく。

2 コースに組み入れる施設等の整備

(1) 里山小学校

全国的にも貴重な100年前の校舎を展示

(2) 名物料理や特産品の検討と販売施設

菊炭、原木しいたけ、北摂くり等地元の特色を活かした料理の検討
地元特産物、農産物の直売施設の建設

(3) 森林ボランティア体験、木工体験、炭焼き体験

森林ボランティア活動地での森林ボランティア体験

能勢電鉄所有保養所跡建物での木工体験（例：里山積み木、里山遊具等）

(4) 整備された里山の散策

高林管理、低林管理された里山を楽しみながら散策や利用体験できるように里山整備を実施する。

(5) 森林利用モデル林整備

森の遊び場等森林利用のモデルを整備

(6) 薪ストーブの森

薪ストーブ用等に個人に対して立木のまま販売して自由に伐採してもらえる仕組みを紹介する

(7) 桜（エドヒガン）の森、ダリア等

(8) 道標、看板、説明板等の整備

(9) 里山まつりの開催

以上の周遊コース整備や、集客を進めるための契機となるよう、イベントを開催する。

4 一庫公園における里山モデルづくり

主体

兵庫県県土整備部まちづくり局公園緑地課、阪神北県民局県土整備部宝塚土木事務所、
財団法人 兵庫県園芸・公園協会 一庫公園管理事務所

活動の場所

川西市国崎、一庫地域の一庫ダムの湖水面に突き出た緑豊かな半島「知明山」に位置する（図参照）



事業の背景

知明山は一庫ダム建設当時、川西市土地開発公社が買収すると共に、民間資本の導入による休暇村などの建設が計画されていた。しかしこの辺りのいっさいは近畿圏の近郊緑地保全区域や猪名川渓谷県立自然公園にも指定され、かけがえのない自然環境が残されていることから昭和57年度に県立一庫公園として都市公園の整備事業（48.2ha）が進められた。

事業内容

一庫公園は、公園面積の約75%に樹林が残り、大部分が一庫炭の薪炭林として維持されてきた

クヌギ林である。このクヌギ林は公園事業化に伴い昭和50年代には施業利用が止まった。およそ30年間自然の遷移に任せてきた結果、クヌギの大径化や衰退が進むなど、数百年間に渡り地域に受け継がれてきた里山の景が失われはじめている。

一庫公園は、現在でも薪炭施業が続く生きたクヌギの里山を有する地域の公園であることを重視し、地域の「環境」「文化」「景観」を広く一般に伝え継承する場として位置づけ、園内の林を「クヌギ生産の見本林」として再生を進めていく。見本林では、地域のクヌギ林と同様適正なローテーションで伐採・炭焼きを繰り返し、クヌギの萌芽や生長過程や台場クヌギを公開し、都市公園ならではの様々な施設を有効活用し、地域の里山のしくみや生態、里山管理の手法を身近にかつ安全に学べる、生きた里山のオープンエアミュージアム公園となることを目指す。

18年度の取り組み

住民との連携を目指したコーディネーション機能の強化

一庫公園では、すでに、里山の保全・継承を目指した取組みが地域住民の間で芽生え、様々な活動が行われている。見本林の再生・運営には、住民と行政との連携が不可欠である。

このため、公園にコーディネーターを配置し、住民との連携の推進を図るとともに、様々な企画イベントを行うなど、里山への関心を高め、裾野を広げる取組を実施する。

- ・住民活動団体への支援（広報活動・県民参画プログラム等の紹介）
- ・様々な企画イベント等の実施（里山林継承に係わるイベントの企画・子供向け学習プログラムの実施）

19年度の取り組み

- ・コーディネーターと住民との連携体制の強化
- ・クヌギ林の再生計画作成

事業実施上の課題等

コーディネーターと住民団体との役割分担の調整及び連携体制の強化

5 一庫公園におけるクヌギ伐採・再生および炭焼体験

主体
ひとくらクラブ

活動の場所
兵庫県立一庫公園自然観察の森(川西市国崎)

活動の背景
ひとくらクラブは2004年10月に正式に発足したもので、自然観察の森の保全と活用を目指して種々行事を行っている。その一環として、公園内のクヌギを伐採して炭焼を体験するとともに萌芽再生を行っている。

<活動の内容>

ひとくらクラブは、兵庫県立一庫公園内自然観察の森の植生と林相の調査を行い、各区域の植生に応じた保全と活用について一庫公園管理・運営協議会に提案し、決定された管理利用計画に基づいた活動を行っている。それらは、クヌギ林再生と薪炭材としての利用、植物観察林の整備と樹木多様性の確保、花木中心の遊歩道の整備、常緑広葉樹中心の極相林管理、雑木林を明るく整備してエドヒガンなどの景観保全とクヌギの高木管理などを旨とするものである。

このうち、炭焼体験とクヌギ再生は3年前から先行して取組み、全国的に有名な「池田炭」を年3~4窯焼き、萌芽再生地の下草刈を行っている。現地には立て看板を設置して来園者に説明し、炭焼きへの一般参加を受けつけている。

炭焼体験とクヌギ林再生は里地里山保全再生モデル事業の主旨と完全に一致するので、平成17年11月の一庫公園管理・運営協議会でそのように共通認識を持つよう決議した。



<今後の戦略>
一庫公園管理・運営協議会で共通認識を持つに至ったので、モデル事業の実験的プロジェクトとしての位置付けで、毎年100㎡、クヌギ30本程度の伐採・炭焼・萌芽再生を継続して行きたい。

6 一庫ダムにおける里地里山保全活動

主体
一庫ダム水源地域ビジョン推進協議会など

場所
川西市一庫地区



背景 / 自然環境

一庫ダムは、猪名川の上流に建設された重力式コンクリートダムで、洪水調節や新規の水道用水、既得農業用水の補給などを目的に昭和58年3月完成した。知明湖は「猪名川渓谷県立自然公園」に含まれ、湖岸にはクヌギ、コナラ、ヤブツバキなどの周辺の二次林(里山)と同様の植生が見られる。また、四季を通じて美しい景観を見せたり、水や自然と触れ合える場として親しまれ、自然学習の場としても地域にとって重要な湖である。



< 一庫ダムの役割 >

ダム事業は、自然保護の観点などから対立・敵対対象として考えられる場面が多かったが、本来は下流域で水を利用する人々への良い水をもたらす水資源の管理を行う場所である。その管理を行うにあたっては里山といわれる近隣山林の管理を含め活動を展開することが必要であり、また一庫ダム保有の湖岸二次林においても、里山管理を行っていく必要がある。

< 一庫ダムにおける具体的戦略 >

クヌギを植えて里山を造ろう大作戦

一庫の代表すべき景観であるクヌギ林再生・管理を環境省と共催で一庫ダム敷地内において、NPOや地元関係者に広く参加を呼びかけ植林活動を行った。また、今後定期的に林床の管理なども行っていく。

台場クヌギをつくろう大作戦(仮称)

一庫ダム周辺にある湖畔林(機構敷地内)において、間伐や下草刈り、クヌギの補植などの手法により台場クヌギを作る実験的活動を行う